

経営戦略計画

平成29年4月

若宮大通駐車場 株式会社

1. 経営戦略計画策定の趣旨

若宮大通駐車場株式会社は、地元企業や大須・栄両商店街の中小企業者を中心とした第三セクターとして平成3年6月に設立、平成6年4月に若宮大通駐車場を開業しました。

開業以来、地域の発展に貢献すべく鋭意努力してきましたが、バブル経済崩壊後の景気の低迷に伴う個人消費の落ち込み等により、売上高は当初見込みを大幅に下回り、平成13年1月期決算には債務超過に陥り、抜本的な経営再建を講じる必要が生じました。

このため、平成14年には、大幅な減資による累積欠損の圧縮を図るとともに、平成15年には、名古屋市をはじめ地元企業の支援を得て第三者割当増資を実施し、長期債務の繰上げ償還等により債務超過の解消と財務体質の改善を図ってまいりました。

同時に、平成15年度及び平成18年度には2次に亘って「経営改善計画」を策定し、各種収入増加策の実施や徹底したコスト縮減に努め、安定的な経営基盤の確立を目指して取り組んできました。

その後、平成23年度及び平成26年度には2次に亘って「経営戦略計画」を策定し、引き続き経営の安定化とともに、名古屋市の外郭団体として自主的・自立的・持続可能な団体を目指して取り組んできました。

今回、策定する「経営戦略計画」は、その改定版として位置づけられるものであり、今後3年間の経営戦略方針及び目標を明らかにし、名古屋市の交通施策と連携・協力を図りながら、当社の経営理念の実現に向けて、平成29年度から平成31年度までを計画期間として策定するものです。

2. 経営理念

大須地区、栄地区の活性化と道路交通の円滑化を図り、「魅力あるまちづくり」の創出を目的に当社の業務を展開し、地域の発展に寄与します。

3. 事業概要

(1) 沿革

- ◇昭和62年 9月 「名古屋市における駐車施策の基本方針に関する提言」において、栄地区を駐車需要に対応するための都市計画駐車場が必要な地区として位置付けるとともに、都心部総合交通対策を誘導するための都市計画駐車場が必要な地区としても位置付け、都市計画駐車場としてのフリンジ駐車場(都心部の交通処理を主として担う道路に面して都心部の面的交通処理を担う駐車場)整備の必要性を提言
- 「若宮大通りの環境をよくする会」が名古屋市に駐車場の建設を要望
- ◇平成 3年 6月 名古屋市が出資する第三セクターとして会社設立
資本金800百万円
- ◇平成 4年 3月 若宮大通駐車場の都市計画決定
- ◇平成 6年 4月 通商産業省(当時)の資金を活用した愛知県の中小企業高度化資金や、建設省(当時)の道路開発資金など公的資金を調達して駐車場を建設し、開業
- ◇平成14年11月 98%の減資を実施
資本金16百万円
- ◇平成15年 5月 第三者割当増資を実施
資本金1,063百万円
- ◇平成27年12月 累計駐車台数500万台に至る

(2) 営業種目

- ①自動車駐車場の管理運営
- ②その他付帯事業

(3) 株式に関する事項

- ①発行済株式の総数 10,630株
- ②株主数 59名
- ③主な株主

株主名	持株数	出資比率
名古屋市	6,020株	56.6%
(株)エンゼルパーク	2,000株	18.8%
(株)大丸松坂屋百貨店	1,016株	9.5%
(株)三菱東京UFJ銀行	508株	4.7%
(株)パルコ	210株	1.9%
(株)三越伊勢丹	202株	1.9%
高瀬興業(株)	200株	1.8%

4. 業績推移

(1) 収支状況

(単位：百万円)

項目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
営業収益	223	226	225	229	227
営業費用	204	205	208	203	194
減価償却費	84	83	83	81	72
営業損益	19	21	17	26	33
営業外収益	4	4	5	5	4
営業外費用	18	17	17	16	16
経常損益	5	8	5	15	21
当期損益	6	4	3	8	13
累積損益	▲216	▲213	▲209	▲201	▲188

(2) 利用状況

(単位：台)

項目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
利用率	10.2%	10.4%	10.3%	10.7%	10.5%
年間利用台数	181,160	186,899	177,686	179,223	171,560

(注)・利用率＝駐車料金収入／収容台数×日数×24時間×1時間当たりの駐車料金

5. 現状と課題

- (1) 平成14年及び平成15年の抜本的な経営再建によって経営状況は改善され、平成18年度以降、世界的な金融危機の影響により景気が後退した平成20年度を除いて黒字を維持しています。しかし、個人消費に陰りが見えるなか、コインパークを含めた周辺駐車場との競争激化、定期券顧客事業所の他地域への転出、さらには、駐車サービスの新たな形態である駐車場シェアリング事業の拡大など、当駐車場を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあり、常に安定した収益確保の努力が必要です。
- (2) 当駐車場建設時に調達した多額の借入金の早期返済が求められている一方で、駐車場システムや受変電設備など耐用年数が経過した設備が多数あり、今後、修繕や設備更新に多額の資金が必要になってきます。このため、経営の安定化に努め、借入金を着実に返済していくとともに、設備更新費を着実に積み立て、計画的に修繕や設備更新を進めることが必要です。
- (3) 当駐車場は都市計画駐車場であり、また、都心部のフリンジ駐車場としての機能を有しています。このため、大須地区と栄地区の連携強化の拠点施設として両地区のまちづくりに貢献するとともに、名古屋市の駐車施策、交通施策の展開の場として役割を果たしていく必要があります。また、その取り組みを安定した経営基盤の確立に繋げていく必要があります。
- (4) 少人数の組織で運営しているため、ジョブ・ローテーションが難しいなかで、駐車場の管理運営に係る幅広い業務に対応できる能力が各社員に必要とされています。

6. 経営戦略方針

大須地区、栄地区の魅力と活力の創出を担う会社として、地域のまちづくり活動や名古屋市の駐車施策、交通施策と積極的に連携を図りながら、安定的な経営基盤の確立に向けて取り組みを推進します。

7. 経営戦略目標

(1) 公共サービスの充実

項 目	内 容
分かりやすく、利用したい、地域のまちづくりに貢献する駐車場へ	<p>当駐車場を知っていただくため、現在、名古屋テレビ塔と若宮フットサルパークでの駐車券サービスや、名古屋市科学館と大須商店街のホームページに広告掲載を行っています。</p> <p>このような周辺施設との連携拡大とともに、地域のまちづくり活動やイベントに積極的に協力、連携して、地域の取り組みを支える駐車サービス等を提供していきます。</p> <p>また、一層の利用者サービスの向上に向けて、精算機器等の駐車場システムを更新し、多様な駐車サービスの導入を図っていきます。</p> <p>加えて、スマートフォン対応ホームページでのナビゲーションや入口案内標識の充実など、初めて利用される方にも分かりやすい駐車場となるように努めていきます。</p>
市の駐車施策、交通施策との連携	<p>名古屋市の交通施策として、駐車場の新たな活用方策を検討するために平成20・21年度にレンタサイクルの社会実験が当駐車場で行われ、その趣旨を継承して当社独自でレンタサイクル業務を継続しています。</p> <p>また、平成25年度からは、FRINGE駐車場の活用方策を検討する駐車料金サービスの社会実験に協力しています。</p> <p>今後も、市の駐車施策、交通施策の社会実験の場、施策展開の場として協力していきます。</p>

(2) 財務内容の改善・向上

項 目	内 容
新規利用者・リピーターの獲得	<p>駐車場システムの更新にあわせ、利便性の向上と新規利用者の獲得につながる新たな駐車サービスの導入を図っていきます。</p> <p>また、特約店の拡大に努めるとともに、地域のまちづくり活動やイベントに積極的に協力、連携していきます。</p> <p>特に、レンタサイクルサービス（駐車場利用者に無料貸出）は、周辺駐車場にはないサービスであり、地域で取り組まれているエリアマネジメント社会実験（コミュニティサイクル事業）と積極的に連携し、地域の活性化と集客の向上へつなげます。</p>
定期利用者の拡大と新たなニーズへの対応	<p>地域動向を常に把握し、新規の事務所・店舗等の開設時に合わせて適切な営業活動を行い、また、定期駐車払戻のための駐車場管理運営業者による営業活動を引き続き展開していきます。</p> <p>また、駐車場の附置義務制度の見直しや、駐車場のシェアリング事業の展開など、新たな市場の動きに適確に対応していきます。</p>

(3) 効率性の発揮と成果

項 目	内 容
経営体力の確保と借入金の安定的な償還	<p>平成14年及び平成15年の抜本的な経営再建時より、社内組織のスリム化、光熱費の削減等によるコスト削減に取り組んできました。</p> <p>今後も、安定した収益の確保とともに、最小経費で最大効果が発揮できるようコスト削減に努め、借入金が着実に返済できるよう経営体力の確保に努めていきます。</p> <p>また、債権者である愛知県と(株)三菱東京UFJ銀行及び名古屋市と当社の四者で、連絡会議を毎年継続的に実施しています。この四者連絡会議において、当社の経営状況などの認識を共有し、新たな経営改善方策や適切な返済額について協議・合意を行うことで、経営の安定化と借入金の早期返済に努めていきます。</p>

計画的な設備更新への対応	<p>事業の継続には、今後、計画的な修繕や設備更新を進める資金が必要となってきます。</p> <p>上記記載の四者連絡会議での確認を得て計画的に資金を積み立て、将来的な費用負担に対応していきます。</p>
--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) 人材力・現場力の強化

項 目	内 容
人材育成	<p>社内会議やOJTを通じて、職員のスキルアップとモラルアップを図り、利用者の満足度を高めるサービスと業務効率の向上を目指します。</p> <p>また、コンプライアンス意識の向上を図るとともに、その実践により、信頼される企業として地域の発展に貢献していきます。</p>

8. 成果指標及び個々の取り組み

経営戦略目標の達成度を計るため、以下の成果指標を設定します。

項 目	目標値		取り組み内容
ホームページアクセス数の増加	H29	51,000 件／年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入口案内等のホームページ内容の充実 ・ QRコードを活用したPR
	H31	53,000 件／年	
市の駐車施策、交通施策への協力	H29	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の社会実験への協力 ・ レンタサイクルの実施 ・ 自動二輪車の受け入れ等
	H31	実施	
一般車の利用台数の増加	H29	106,000 台／年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規駐車サービスの導入、レンタサイクル等のPR拡充 ・ 周辺施設、地域のまちづくり活動、イベントとの連携拡大
	H31	107,000 台／年	
定期駐車券の販売件数の増加	H29	260 件／月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場管理運業者との連携及び営業活動による販売拡大
	H31	280 件／月	

経営体力の確保(キャッシュフロー)	H29	65 百万円/年	・ 安定収益の確保と管理費の節減、 効率的な組織運営
	H31	66 百万円/年	
設備更新のための積立	H29	10 百万円/年	・ 着実な資金留保と計画的な修繕、 設備更新の実施
	H31	10 百万円/年	
社内会議の開催(月1回)	H29	12 回/年	・ 社内会議の活性化と、職員のモラル、 コンプライアンス意識の向上
	H31	12 回/年	

9. 経営戦略計画の進捗管理

毎事業年度の事業報告書及び決算の作成を通じて計画の達成状況を検証し、次年度の取組みに反映させ、経営改善計画の目標の達成に努めていきます。

17 若宮大通駐車場株式会社

平成28年7月1日現在

設立年月日	平成3年6月21日	代表者氏名	代表取締役社長 服部 明彦		
所在地	名古屋市中区大須三丁目6番10号先		電話番号	052-251-7581	
ホームページアドレス	http://www.wakamiya-p.jp				
資本金・基本金	1,063,000千円	市出資・出捐金	602,000千円 (56.6%)		
所管部局	住宅都市局都市計画部交通施設管理課		電話番号	052-972-2774	
設立目的	若宮大通の周辺区域の駐車場不足に対応して、地元商店街の活性化及び道路交通の円滑化を図るため、名古屋市及び地元商店街等の総力を結集し、若宮大通の地下に駐車場を建設、管理運営を図るとともに、合わせて魅力ある「まちづくり」を進めることを目的とする。				
主な事業	事業名	平成27年度 営業収益	事業の概要		
	自動車駐車場の経営	229,166千円	都市計画駐車場の管理、運営		
役員数		常 勤			非 常 勤
	役員数	3人 (うち市派遣)	0人 (うち市OB)	1人	6人
	職員数	1人 (うち市派遣)	0人 (うち市OB)	0人	7人
常勤役員平均報酬 (市派遣職員を除く)	5,040千円	正規職員平均給与 (市派遣職員、臨時職員、嘱託職員等除く)		正規職員平均年齢 (市派遣職員除く)	正規職員1名のため非公表
市からの財政支出 (税抜方式にて表示)		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	委託料	0千円	6,566千円	4,872千円	
	内 随意契約金額	(0千円)	(6,566千円)	(4,872千円)	
	補助金	0千円	0千円	0千円	
	指定管理料	0千円	0千円	0千円	
損益計算書 (正味財産増減計算書)	貸付金 (年度末残高)	0億円	0億円	0億円	
	経常収益	230,573千円	230,105千円	234,159千円	
	経常費用	222,839千円	224,837千円	219,350千円	
	経常利益 (損失)	7,733千円	5,267千円	14,810千円	
	当期利益 (損失)	3,792千円	3,351千円	8,490千円	
貸借対照表	総資産	3,331,071千円	3,251,934千円	3,184,576千円	
	内 流動資産	(59,254千円)	(60,392千円)	(69,291千円)	
	内 固定資産等	(3,271,817千円)	(3,191,541千円)	(3,115,285千円)	
	総負債	2,480,749千円	2,398,260千円	2,322,412千円	
	内 流動負債	(1,350,851千円)	(1,728,562千円)	(2,322,412千円)	
	内 固定負債等	(1,129,898千円)	(669,698千円)	(0千円)	
	純資産 (正味財産)	850,321千円	853,673千円	862,163千円	